

ざいそう

## 夢の丸太小屋に暮らす

中野 至



自然に囲まれた丸太小屋のウッドデッキで、手作りのテーブルの上に1冊の本を置いて椅子に座り何もせず、しかも罪悪感を覚えずに一日を過ごす。これを人生での究極の目標にしたい。結婚し子供が出来、仕事も充実し始めた頃に、この思いが膨らみ始めた。私の生まれは北海道、父の仕事のため、4歳の時に大分の佐伯へ、小2で熊本の八代、小5で再度北海道、中3で福岡の門司、高1の2学期から東京に転校となった。地方都市に住み、北海道では自然豊かな所で放課後は毎日がアウトドアであった。この時期に「自然への思い」がDNAに植え付けられ、大人になってから、仕事のプレッシャーがこのDNAを目覚めさせたのであろう。

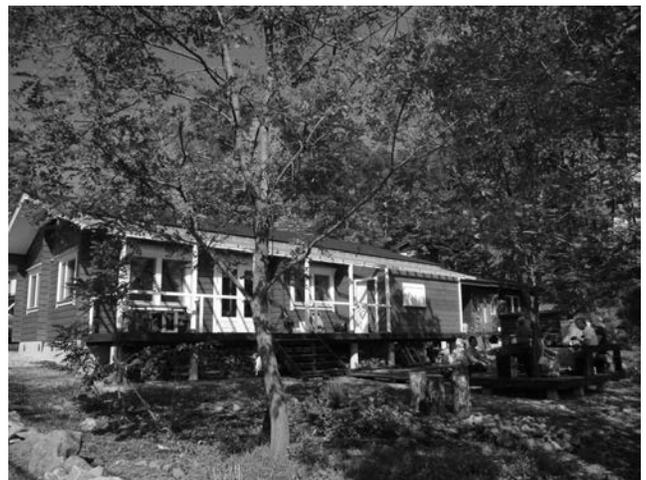
目標の環境を手に入れるためには4つの事を実施する必要がある。1つ目は、丸太小屋を建てるための情報を手に入れること、2つ目は、好みに合ったテーブルと椅子を製作するノウハウを蓄積すること、3つ目は、何もしなくても罪悪感を覚えない精神構造を作ること、4つ目は、実行する場所を手に入れること。

丸太小屋に暮らすと言うことは、自然と一体となる感性を持つことであろう。そのため最初に、アウトドア関連の書籍を読み漁った。1981年7月創刊の「ビーバル」などを定期購読し、自然と親しむ様々な情報を手に入れた。キャンプ、カヌー、セーリング、アウトドアグッズ等。情報を基に、子供の頃や、青春時代の登山、スキー、ユースホテル利用の旅を思い出し、仕事の合間を縫い、アウトドアを実践した。キャンプ道具を揃え全国のキャンプ場84ヶ所を家族4人でオートキャンプしつくした。カヌーのキットを組み上げて、釧路川、那珂川、気田川、四万十川の川下りをした。32ftのヨットで海に乗り出した。その上で、目的に関する書籍、「ウッディライフ」「夢の丸太小屋に暮らす」「田舎暮らしの本」「手作り木工辞典」で丸太小屋(ログハウス)の情報を蓄積し、電動工具、手工具を買い込み、テーブル、椅子、カウチ、食器棚を手作りした。この様にして、夢の実現の1つ目と2つ目はクリアした。

そして55歳の時、会社を早期退職し、フルタイムの仕事から解放され、仕事としていた「品質管理」のノウハウを100頁の論文としてまとめた。論文で仕事

を集大成したことにより、サラリーマン気質の縛りから解放され、仕事や何かしなければと言う義務感が薄らいだ。ところで、中野家は中津藩の中級武士で、曹洞宗の「天寧寺」が菩提寺である。そこを訪れ墓参りした。北陸旅行で永平寺を訪れた事と併せ、禅宗に興味を持ち、禅の本を読み、自己流であるが座禅を毎晩組むようになった。精神構造を変化させることが出来、3つ目もクリア出来た。

最後に、場所探しである。木工のノウハウを生かし、車(パジェロ)に寝床と台所を取り付けてキャンピングカーに改造し、「道の駅」に泊り、8年掛けて夫婦で全国を走り廻った。その結果、ログハウスを建てる場所を甲州と信州に絞り込んだ。「マップル」と言う道路地図がある。そこの八ヶ岳南麓のページのコメントに「庶民的な別荘地」とある。自分の懐具合を勘案するとピッタリである。1年掛けてこの地を何度も訪れ、土地を見て回った。この時期には、ログハウスを建てるなら、丸太剥きだしの丸太ログと言うより、より実用的なマシンカットの角ログと思い、フィンランドのログハウスメーカー「ホンカ」と思い定めていた。土地がなかなか見つからなかった時に、「ホンカ」建設の工務店と偶然出会った。そこでログ建設の話をしていて時に、「土地は決まっているの?」と問われ「まだ」…。「中野さんの感覚に合いそうな物件がありますよ」と言われ、連れていかれた物件を気に入り、購入を決めた。4つ目もクリア出来た。



ログハウスは2012年の秋から基礎工事が始まり、2013年4月から建て始め、7月に完成した。それからは1カ月の内、現住所相模原での仕事の無い3週間は、標高1,120mの八ヶ岳南麓に夫婦で過ごしている。

思い返してみると、自然の中の丸太小屋に暮らしたいと言う夢を持ってから33年、準備期間を十分に掛けたからこそ、目標の環境を手に入れることが出来たのであろう。

しかし、八ヶ岳での暮らしは、当初の思いとは多少違って来た。一日何もせずに過ごすと言うわけには中々行かない。「晴耕雨読」で、晴れの日には体を動かすことになる。一日の基本は、夫婦での1時間の自然の中の朝散歩に始まり、私は木工や大工仕事をする。家内は家事と庭作り。午後は気が向けばもう一仕事。寝る前にストレッチと座禅。ワンデーワンジョブとして、「根を詰めない」を心がけている。

ログハウスは、基礎と建屋の建設と水回りなどの設備の設置は工務店にやってもらったが、内装はほとんど無く、大工さんから、「収納はどうするのですか？」と心配された。その時は、「予算の関係で…、これから自分で作ります」と言い訳をしておいた。「ホンカ」ログは、建屋の部材はフィンランドの工場でカットされて、コンテナに詰められて、スエズ運河、マラッカ海峡を通り3カ月かけて横浜港に着く。そのために歩留まりを考えて1割程度多く積んである。ログも10mの1本がXログと称し余分にあり、予定のログに問題が生じたら使われる。今回は順調に建設出来たので、Xログと壁材、天井材、床材が大分余った。この余材を内装と家具作りに存分に使った。10mのXログを3等分してリビングのスピーカー台兼長椅子とした。そして、ウッドデッキの一部に木工室を作り、今まで揃えた電動工具と手工具を相模原から持って来て設置した。

1年半で、リビングテーブル、洗面所の棚、キッチンテーブル、主寝室のクローゼット、玄関ベンチ、台所調味料用棚、ベッド2台、枕テーブル、下駄箱、ダイニングカウンターテーブル、ウッドデッキテーブルと椅子、等々を自作した。また、玄関横の10畳程度のスペースを、ログ壁材を作って玄関と仕切り、1部屋として客室兼、多機能室にした。多機能室の壁に棚階段を作り、ログ材2本で梁を渡し、中二階（ロフト）を作りあげた。これでほぼ、収納等の内装が完成した。

庭には南アルプスを一望できる第二ウッドデッキを自作し、母屋との間に渡り廊下を設置した。その横に、ピザ窯、スモーカーを製作した。ピザ窯は耐火煉瓦を



2室に積み上げ、下室で火を焚き、上室でピザを焼く様にした。スモーク室はログ壁材で作った。ピザもスモークも10年前から相模原で始めており、試行錯誤の結果を八ヶ岳の設備に織り込んだ。ピザは友人が我がログに遊びに来たら供している。スモークは、ハムやベーコンは温薫で、スモークサーモンは冷薫で8時間スモークして美味しく変身させ、毎日の料理の素材にしたり、そのまま酒のつまみにしたりして食している。

標高1,120mでは夏は冷房要らずだが、冬は氷点下15℃まで下がる。24坪のログの暖房は薪ストーブである。このストーブだけで10月から4月までの冬場を暖かく過ごす事ができる。薪は業者が定期的に各戸を巡回し使った分だけラックに補充する仕組みになっている。また、ログを建てた時に伐採した木はチェーンソーで玉切りにし、斧で割り、ウッドデッキの下に積み上げ1年乾燥させて使った。来シーズンからの分は、八ヶ岳の友人を通じ丸太を調達し、現在も2カ月分の薪が積んである。

家内の趣味は「押花」と「マンドリン」である。八ヶ岳に来て、押花の素材を集めやすくなった、音を気にせず練習が出来ると満足している。家内は2週間程度、相模原へ電車を使い一人で帰る。押花教室の参加と、仲間と福祉施設でマンドリンを演奏するためである。一人で相模原へ帰る時は、料理のレシピを書いておいてくれる。私はレシピを基に料理し、差し引き1週間の八ヶ岳での独身生活を楽しむ。

この7月で丸2年八ヶ岳のログで過ごしたことになる。2年間は当初の思いより働き過ぎたように思うので、これからは何もしない日を増やし、夫婦2人、自然の中、のんびり過ごすつもりである。